

マスコミ各位

令和5年12月15日（金）

沖縄県保健医療部ワクチン・検査推進課 感染症予防班

担当：加藤、嘉数

電話：098-866-2013

沖縄県の梅毒患者報告数が、3年連続で過去最多を更新

～梅毒は「早期発見・早期治療」と

「パートナーと一緒に検査・治療を受ける」が重要です～

概要

本県の梅毒患者報告数は、2022年は134例（男性：93例、女性：41例）で当時の過去最多となっていました。2023年は第49週（12月10日）時点で137例（男性：98例、女性：39例）が報告され、2021年から3年連続で過去最多を更新しています。

2023年は第49週時点で、全国の患者報告数も14,088例と過去最多を更新しています。県内では、女性の割合が28.5%と近年では高く、特に20代女性の報告数が25例と多くなっています。

また、HIV感染症との重複感染も17例確認されており、梅毒等の性感染症に感染した場合は、他の性感染症についても検査を受けることが重要です。

梅毒は、抗菌薬による治療が有効であり、早期発見・早期治療が重要です。また、性的接触により感染するため、パートナーと一緒に検査を受け、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。

マスコミの皆様には、早期発見のため梅毒検査の重要性および感染経路、症状、予防法等について、周知をお願いします。

[資料]

1 梅毒：5類感染症 [全数把握]

梅毒トレポネーマという細菌による感染症です。感染症法において5類感染症の全数把握対象疾患に分類され、全ての医師が、全ての患者の発生について診断から7日以内に届出を行うことになっています。

●感染経路

性的接触、血液を介しての感染（注射器具の共用など）、母子感染があり、現在はほとんどが性的接触による感染です。

性的接触では、性器同士の接触だけでなく、性器と口（オーラルセックス）、性器と肛門（アナルセックス）の接触で、性器周辺、口の中、肛門や直腸に感染することがあります。また、病変部位が口にある場合はキスで感染することもあります。

梅毒とHIV感染症の重複感染

梅毒になると粘膜に炎症をおこすため、HIVにも感染しやすくなります。また、同様にHIVに感染していると梅毒の感染リスクが高くなるとされています。2023年（12月10日現在）の県内の梅毒137例のうち17例が、2022年の梅毒134例のうち18例がHIV感染症との重複感染が確認されています。

梅毒に罹患した場合や、梅毒に罹患しているか調べたい場合は、HIVなど他の性感染症にも感染していないか検査を受けることが重要です。

●臨床症状（梅毒の経過）

梅毒は、感染後の経過した期間によって、症状の出現する場所や内容が異なります。以下①～③のように経時的に様々な臨床症状が逐次出現し、その間に症状が軽快する時期があるため、自らの感染に気がつきにくい特徴があります。

① 早期顕症梅毒 第Ⅰ期（感染後約3週間）

感染後3～6週間程度が経過すると、菌が侵入した局所（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）に、しこりや潰瘍ができたり、股の付け根（鼠径部）のリンパ節が腫れることがあります。痛みがないことも多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。

しかし、体内から病原菌がいなくなったわけではなく、他の人に感染させる可能性があります。感染した可能性がある場合には、この時期に梅毒の検査が勧められます。

② 早期顕症梅毒 第Ⅱ期

第Ⅰ期の症状消失後から更に4～10週間が経過すると、手のひらや足の裏を含む全身の皮膚や口腔内に発疹が出現したり、脱毛、発熱や怠さなどの全身症状が出ます。これらも治療をしなくても数週間～数か月でなくなります。

しかし、治療しない限り病原菌は体内に残るため、梅毒が治ったわけではありません。

③ 晩期顕症梅毒

第Ⅱ期の症状は再発することもあります。それでも治療せずに数年～数十年が経過すると、体にコブ状のしこりができたり、心臓や血管系の症状が出る他、認知症、手足の痙攣、体の麻痺などへ進行する場合があります。

また、妊婦が梅毒に感染していると、胎児へ感染し、流産や死産、出生後の赤ちゃんに難聴や歯の発育異常などの障害が出る原因となります（先天梅毒）。

●患者発生状況

表 1：過去 10 年間の全国および県内の患者報告数（2023 年 12 月 10 日現在）

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
全国	1,228	1,661	2,690	4,575	5,826	7,007	6,642	5,867	7,978	13,221	14,088
沖縄県 男性	14	39	14	36	35	63	39	33	71	93	98
沖縄県 女性	2	1	3	5	8	11	7	13	23	41	39
沖縄県 合計	16	40	17	41	43	74	46	46	94	134	137

図 1：過去 10 年間の全国および県内の患者報告数推移（2023 年 12 月 10 日現在）

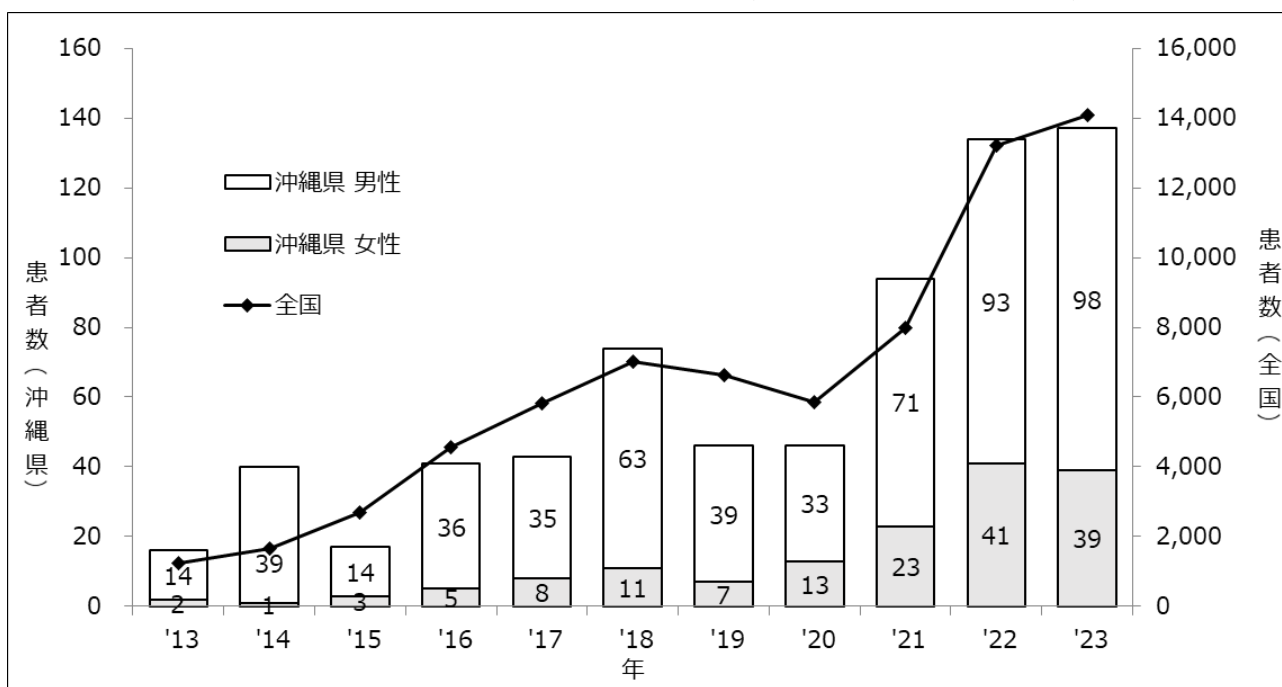


表 2：2022 年および 2023 年の県内の男女年齢別患者報告数（2023 年 12 月 10 日現在）

年齢（歳）		0	1-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	合計
2022年	男性	-	-	2	20	19	30	14	6	2	93
	女性	-	-	4	23	8	1	2	-	3	41
2023年	男性	1	-	-	27	36	21	10	1	2	98
	女性	-	-	2	25	7	3	1	-	1	39

●治療

- ・ 一般的には、抗菌薬を内服することで治療します。
- ・ 医師が治療を終了とするまでは、処方された薬は確実に飲みましょう。また、性交渉等の感染拡大につながる行為は、医師が安全と判断するまでは控えましょう。
- ・ 梅毒は一度治療で完治しても、また感染します。パートナーが治療をしなければ、また感染することがあるので、パートナー同士で感染の有無を確認すること、つまりパートナーと一緒に検査を受け、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。

●予防

- ・ 性的接触は特定のパートナーと行う。
- ・ 皮膚や粘膜に異常があった場合は、性的接触を控える。
- ・ パートナー同士で感染の有無の確認を行う。
- ・ 感染部位と粘膜や皮膚が直接接触をしないように、コンドームを使用する。
※コンドームが覆わない部分の皮膚などでも感染がおこる可能性があるため、コンドームを使用しても、100パーセント予防できるとはいえません。

●検査

- ・ 県内保健所では、無料・匿名での検査を受けることができます。
- ・ 明らかな自覚症状がある場合、パートナーの感染が明らかな場合は、検査を実施している医療機関（性病科、感染症科、皮膚科、泌尿器科、婦人科等）を受診し相談してください。

2 参考

●沖縄県ワクチン・検査推進課「保健所検査実施状況のお知らせ」

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/vaccine/yobou/hiv aids.html>

●沖縄県感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報・月報 ～速報～」

「全数把握疾患（1～5類）」>「疾病分類別報告数」に、県内および全国の梅毒の報告数を掲載しています。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html#syugepou>

●国立感染症研究所「梅毒とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/465-syphilis-info.html>

●厚生労働省「梅毒」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html

●H I V検査相談マップ「梅毒って、なに？」

<https://www.hivkensa.com/sti/https://www.hivkensa.com/syphilis/>